

2022年度
東北工業大学AOVA選抜

「小論文」問題用紙

【注意事項】

「小論文」を記述するにあたっては、次の要領に従ってください。

1. 鉛筆またはシャープペンを使用してください。
2. 受験学科、受験番号、氏名を記入してください。
3. 記述は横書きで、時間は80分です。
4. 配布した〈小論文 メモ用紙〉は、メモ用として使用してください。提出は不要です。

【問題】記事「SNS記事 うのみにする人は著者も文体も気にせず」を読み、次の課題に答えなさい。

I 記事の要旨を200字以内（句読点を含む）で書きなさい。

II 記事の内容をふまえて、SNS情報の問題点とその問題の解決方法についてのあなたの意見を600字以内（句読点を含む）で書きなさい。（意見を述べる際には、そのように考えた理由を必ず記述すること）

【記事】 「SNS記事 うのみにする人は著者も文体も気にせず」

ソーシャルメディアの記事に“未検証”あるいは“疑わしい”といった警告が表示されていると、読者は内容をうのみにしないことが多い。一方で、記事の著者の経歴や文体などは、読者が記事を信頼し拡散する度合いに影響を与えない。こんな結果を示唆する研究結果が明らかになった。この研究を実施した米カンザス大学の Hong Tien Vu 氏らは「Facebook や Twitter などのソーシャルメディアの大手企業には、誤解を招く危険な情報の拡散を封じ込める責任があることが示された」としている。研究結果は、国際コミュニケーション学会年次集会（ICA 2021、5月27～31日、オンライン開催）で発表される予定だ。

Vu 氏らは今回、「ビタミン B17（架空の栄養素）の不足が原因でがんになる可能性がある」というフェイクニュースを、著者のプロフィールや文体などを変えて作成し、750人以上の研究参加者に読んでもらった。記事には八つのバージョンがあり、「医師の署名記事の体裁で、著者の医学的な資格も記載したもの」や『ライフスタイル・ブロガーでクリエイティブ・ライティングの経験がある2児の母親』が書いた体裁にしたもの、「文体がジャーナリスティックなもの」「くだけたもの」などだった。

その結果、読者は記事に対してさまざまな反応を示すことが明らかになった。例えば、ソーシャルメディアに詳しい読者は、記事の内容を慎重に評価し、記事のシェアには消極的な姿勢を示した。

それに対し、健康関連の情報に対する関心の強い読者は、記事の正確さに対する判断力が低く、信頼性が不確かでも記事をシェアする傾向が強かった。

その一方で、記事の著者の資格や文体の違いは、読者が記事の正確性をどう評価するか、あるいは、記事で勧められていることに従ったり、記事を他者とシェアしたりするかどうかには大きな影響を与えていなかった。

しかし、記事に「検証された情報ではない」との警告表示がつけられている場合には、読者の記事に対する信頼度は低下し、推奨内容に従ったり、記事を他の人とシェアしたりする率も低かった。

Vu 氏は、「警告表示のある情報を目にすると、たとえそれに対して同意できなかったとしても、とりあえずは情報内容に疑念を抱くものだ」と話す。そして「ソーシャルメディアの企業が情報を検証するか、誤った情報や未検証の情報、あるいは危険な情報を含むコンテンツへの警告表示を出す必要があることが示された」と結論付けている。

また Vu 氏は、「この研究結果からは、フェイクニュースかどうかの判断を読者や視聴者に任せられるようになるには、まだだいぶ時間がかかることが予測される。ソーシャルメディアの利用者が情報の信ぴょう性を評価するには頭を使う必要がある。一般的なネットサーフィンでは、情報の検証をソーシャルメディアの大企業に頼る傾向が強い」と話している。

今回の研究は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染が拡大する前に実施されたものだが、得られた知見は今こそ重要な意味を持つといえる。というのも、パンデミックのさなかでは、一見、無害に見えるフェイクニュースでも、危険な影響を与える可能性があるからだ。

（毎日新聞『医療プレミア』2021年3月25日掲載「ヘルスデーニュース」より）